

件名	第1回松崎地区駅前活性化協議会
日時	2019年6月17日(月) 19:00~20:15
場所	総合相談センター どれみ
出席者 (敬称略)	協議会委員:谷口、本庄、川崎、速水、立木、岸田、藤原、遠藤 湯梨浜町役場:遠藤室長、濱本主事 まちづくり株式会社:川田社長 (委任状)北村、川本、澤 (欠席)河本、清水、上治
決定事項 (合意事項)	竹灯籠制作教室8月24日(土)開催。協議会委員は参加者の補助を行う。竹灯籠80個制作。 8月19日(月)竹の切り出し(川田建設に委託)。8月21日(水)協議会委員で竹の細断作業。 (斜めに切る。)竹灯籠制作教室参加者は傷害保険加入。竹灯籠の保管場所に旧東郷中学校 利用。高野委員協議会脱退。
次回までの 調整事項	傷害保険の負担金、加入手続きに必要なもの。
配布資料	第1回松崎地区駅前活性化協議会レジュメ、松崎神社例大祭竹灯籠の灯りプロジェクト(企画書)、予算書(案)、竹とうろうチラシ-(竹・とうろう)(1)、竹灯籠プロジェクト(案)_0001

1. 開会

(事務局)時間になりましたので、令和元年第1回松崎地区駅前活性化協議会を始めたいと思います。では、会長のご挨拶をお願いします。

2. 会長あいさつ

(会長)その前にですね、この度、事務局の担当さんが異動で、新担当さんになりました、ひとつ自己紹介の方をお願いします。

(事務局)はい、今年の4月から新しくみらい創造室に配属になりました。よろしく願いいたします。

.....各自自己紹介.....

(会長)ありがとうございます。今回、高齢と健康上の都合により脱退希望が1名ありました。副会長並びに役場の方で協議致しまして、やむを得ないだろうという事で、まあ特に具体的な議題もないものですから、協議のうえで、本日までという事で。委員は一人減という事になりますが、ご協力の方よろしく願いします。という事でよろしかったでしょうか。

(事務局)はい。

(会長)それで、辞退届はまだ出てないでしょうか。

(事務局)出てきました。

(会長)そうですか。という事で、総勢14名という事になりますので、よろしく願いします。会長あいさつですけれども、3月11日に一区切りついて、協議会でテーマを絞った活動をしていこうという事です。今回の竹灯籠づくり、非常に地域の評判も良かったというところから、実際の進め方などみなさんと一緒に協議しまして、松崎地域を盛り上げる活動を展開していきたいと。みなさんの忌憚ないご意見をいただきながら、竹灯籠づくりを中心とした展開を進めていきたいので、みなさんの活発なご意見をお願いいたします。以上です。よろしく願いします。

3. 議事

(1) 平成30年度第6回(3月11日)協議会以降の報告

(事務局)では、議事にうつります。一つ目に、平成30年度第6回(3月11日)協議会以降の報告

になります。お手元の資料をご覧ください。松崎地区駅前活性化協議会、これまでの取組報告を配布いたしました。広報ゆりはまの4月号と一緒に松崎地区427戸、中興寺地区99戸に配布を致しました。また、町のホームページにも平成30年度第6回協議会までの議事録を掲載いたしました。次に、とりぎん青い鳥基金助成金贈呈式が3月20日にありまして、写真の通り贈呈式が行われました。3つ目、ゆるりん館に足湯元気湯がオープンしました、という事で、みなさん既にご承知おきだとは思いますが、3月末にオープンしました。利用時間は9時半から18時半までとなっております。利用状況なんですけれども、利用者数とかはまだ出せないようなんですけど、ゆるりん館に来られた方がちらほら利用されている姿を見るという事です。ちょっと熱いという声もあり、かき混ぜ棒を新たに設置されたり、そういう取組もしているところです。取組報告は以上です。

(会長)ありがとうございます。今の3月11日以降の取組3点ございましたが、補足事項とかご意見・ご質問等ございませんでしょうか。2番の点で助成金の贈呈式がありましたけど、目録をいただきましたが、5万円金融機関の助成金をいただいとります。あと、足湯が熱いという話がでておりますが、今日はそんなに熱くなかったと思います。

(事務局)今日は良かったみたいですね。いつもはもうちょっと熱いみたいで、調節が難しいと。

(事務局)いろんな気象条件とか、他の施設の利用条件で温度が変化するもんで、やっぱり、調整するような機能をつけなければいけないのかなと今検討しておりますけど。現在は手動で、湯の入る湯量だけで調整してますので、なかなか調整に苦慮しております。

(委員)あのすだれはいいですね。

(事務局)日差しが強いという事でね。

(委員)入ってる人が、見えちゃうから。でも今すだれがしてあるから、よくなった。足湯に入っていると普通の人から見ると、あの人暇なのかなあって思われるらしい。だから目隠しをしたのは良かったと思う。やっぱりそういう思ったところ、気づいたところをやっていくのが良いと思う。

(副会長)湯船っていうか足を入れる中が青かびみたいなものがよく出ると聞きますがどうか。

(事務局)青かびというか・・・。

(副会長)かびかどうか分かんませんが。

(事務局)温泉管の中にこう付いた温泉の成分ですね。あれがどうしても湯が動くと一緒に出てくるといふ事で、今パイプの出口に袋をかぶせた。あれで大分減ってるようなんですけど。

(事務局)温泉の成分か何かですか？

(事務局)そうです。毎日湯を抜いて、掃除はしていますので、湯船から発生するものではないですけど、どうしても配管からは出てきますから。

(委員)パッと出た瞬間ポッと出てしまう。

(事務局)そうですね。

(会長)特に協議会の関係の報告、1番ですね。自主報告しましたけど、なにか反響があったとか、こういう声があったとか、何かありましたら。区長さんの方からこうあったとか。一定のけじめをつけて報告させていただきましたから、何してたんだという事はないと思いますけど。なにかご意見など聞かれたとかいう事はありませんでしたでしょうか。また何かありましたら、最後の方で。では次をお願いします。

(2) 竹灯籠あかりプロジェクトの進め方について

(事務局)次に議事2番、竹灯籠あかりプロジェクトの進め方という事で、企画書をこちら会長と副会長さんが相談して決めてくださったのですけれども、お願いしてもいいですか。

(会長)じゃあ、私の方でやりましょう。それでは、竹灯籠の灯りプロジェクト企画書(案)です。今後は地域のみなさんが参加しやすいという観点で、作ってみたくてですが。みなさんのご意見を伺いながら。昨年度はまちづくり会社の全面協力をいただきまして、作らせていただきました。今年はお金の部分は金融機関さんの助成金、人の面は地域の人に参加していただいた竹灯籠づくりにしていきたいという風に考えております。目的につきましては、ここに書いておりますように、灯りで彩る地域の祭り応援プロジェクトという事で、榊台の日、例大祭の日も点灯するという考えです。協議会と区長会が連携しまして、地域の住民の協力を得て活動し、新たな祭り応援文化を創出するという事で、伝統芸能の地域応援文化を継続的に実施して地域の活性化を目指していきたいという基本的な考えでおります。従来通りの考え方です。主催は活性化協議会、共催、後援を区長会と自主防災会に後援をいただくという事です。特に区長会については点灯、自主防災会については、材料やシート借用とかそんなところは防災会の協力があるという事です。じゃあ、何をするかという事が、ここに書いてあるように竹灯籠を作っに行こうという考え方です。開催日を8月下旬にさせていただきます。子どもさんが参加しやすい日程を考えさせていただきました。具体的には8月24日土曜日、13:30~2時間程度計画しております。子どもさんは、学校は8月26日位からじゃないかと勝手に思ってますけど、場合によっては宿題にもなり得るかなあとと思って、その辺もしわかれば。

(副会長)いつが始業式?26日?

(会長)26日始業式。じゃあ宿題には成り得る、という事です。2時間程度、場所は中央公民館で作らせていただくということです。企画書の6番目、竹灯籠制作の主な活動スケジュールです。昨年は急ぎよ、事務局等メンバーの協力により一気に作りましたが、今回は80個程度にします。というのは、昨年はコスト難に、事務局の力で、職人さんの経費を格段に安い料金でやっていただいた。今年はそうはいかないという事を先般、副会長と話しまして。もっと作りたんですけど、80個程度作ったいこうという考えでございます。まずはスケジュールですけど、8月24日をターゲットにしまして、少しきめ細かい日程を決めたいと。7月に竹灯籠づくりの募集チラシを配布して、8月の19日頃に、竹の提供を有料ですが、委託でお願いします。十分な費用は出せない状況を先方にご了解を得ています。8月21日に竹を細断しまして、8月24日に竹とろう作り教室を開催。そして区長会で協議して、10月の松崎神社例大祭、今年は10月の12日が土曜日、13日が日曜日、ということで地域のみなさんと一緒に盛り上げていきたいという考えでございます。置き場の問題もあり、短期決戦で、細断から提供から教室まで短期間でやっていく。運んだりが大変なものですから、短期決戦で搬入から教室の開催まで1週間以内にやっていきたいと。今はそのつもりでおります。この辺の日程について、副会長さん補足事項がありましたら・・・細断の面でなにかあったら・・・

(副会長)竹を斜めに切るっていうのが大変。去年もされた方大変だったと思うんですけど、それも丸ノコを都合して。それで1区の方に頼んでおります。筒を斜めに切るのは手だとなかなかきれない。ざーっと丸ノコで切らないと出来ないもので。21日に予定しておりますけど、頼んだところ快く了解をとってあります。ですから、初めは、竹を取って来ていただく。それをひとつの筒に切って、それを斜めに、という作業をするのが21日。それから最後に穴を開ける、そういう風な形になりますので、24日は道具をお借りして、中央公民館の講堂で穴あけ作業するという事で。結構道具があった。

(会長)5種類ある。ドリルが。

(副会長)また増えてますなあ。

(会長)という事で再度確認しますけど、8月19日は竹を納入していただく。そして8月21日に、協議会のメンバーの有志で1区の方の協力を得て細断作業をする。8月24日に竹灯籠づくり教

室を。これは講師の先生が、中央公民館の講堂で約20の機械で、やっていくという形になります。

(委員) 実行委員会プラス20人という事ですか。

(会長) そうです。地域の人が先に。無い場合は実行委員会。だから私たちは、応援みたいな形でお手伝いみたいな役をしていきたい、いう風に思います。

(委員) 募集定員の中には入らないという事。

(会長) そうです。募集定員に足りなかったら入るとか、子どもたちの世話、そんな感じです。という事でみなさんの方は21日の細断作業、24日の実際の教室の応援参加という事でご協力をお願いしたいと思います。

(委員) 細断作業って時間的にはどのくらい？

(会長) 午後でやるから、2〜3時間あればできると思いますよ。

(委員) 24日が本番で。

(副会長) 穴開ける。

(事務局) 24日が13:30ですね。

(会長) 最後になりますけど、細断の方は、21日水曜日の午後にやろうかと。多分だいたい午後で・・。

竹灯籠作りは、親子20名は一斉にやっという風と考えております。子どもさんも入っていただいて、先着順に、いう事で考えています。13:30から2時間程度という考え方で。これについてはチラシ、募集要項があります。資料の最終ページに、事務局に急ぎよ4案作っていただきました。カラーを考えてましたが、お金が無くなりまして、白黒って言ったらほんとに白黒できました。まず、日にちの方は8月24日火曜日、時間は13:30から15:00、2時間程度、場所は中央公民館で、大講堂。シートを敷きます。防災会が5枚持ってますから、そのシートを敷いて、その上で作業する。5枚くらいで足りるかどうかわかりませんが、多分足りると思います。講師は竹とうろう職人の先生です。現在、燕趙園で教室を開いとられまして、副会長と実際交渉に行きまして、講師料と言ったところ、今は講師料という制度はないので、1人当たりの単価で、ということでした。去年は事務局の顔で特段の大値引きだったので、今年は出来ないという事を言われまして・・。参加費は、あくまで竹とうろう制作ボランティアですから、無料という考え方にします。募集定員は20名、申込締切は8月19日、作品は1個は持ち帰りできると。あとは、小学生低学年以下は親子参加と。あと、主催は協議会です。公民館事業と一緒にやろうと思って、共催は中央公民館と考えてましたけど外しました。政教分離という事で事務局からアドバイスがありました。町の後援も考えていましたけど、後援も政教分離の考え方で出来ない。ただ事業としては協議会の事業として進めるという事です。従って、申込・問合せ先は公民館の名前を削除しまして、副会長の名前で、公民館の電話番号を案内します。

(委員) 数はいくつぐらい作る？

(会長) 80個ぐらいは行けると思いますよ。

(委員) 今あるやつは使う？

(会長) 200くらいある。

(副会長) 使いますよ。

(委員) 継続で使うんだ。

(会長) それもあとで相談します。という事ですけど、ご提案があったら。以前子ども教室の話がありましたけど、ご意見なんかいかがでしょう。

(委員) 持って帰れるのがいいですね。

(会長) よろしいですか。次に大事な(企画書の)8番の金の部分です。添付の収支予算書の通りで

す。収支予算書、お手元の資料です。収入の部、補助金という事で、金融機関の基金助成金5万円。あと自己資金は寄付です。足りなかったら寄付、第一番目に神社。なかったら、実行委員会、協議会メンバーからと思ってます。500円程度を考えています。支出の部ですけど、報償費、これが竹とうろう教室開催料。教室開催は、一人当たり2,000円だそうです。ただし今回は、竹を準備するという事から500円値引きしてもらいました。1,500円の20名で30,000円。そして出張料ですね。向こうに行けばいいんでしょうけど、大人数ですから、中央公民館にきてもらって町内は5,000円で35,000円。そして、竹灯籠の細断機材の謝礼で4,000円、ただ、現在機材を一台予定してますけど、もう一台いるかなあと思って。前は誰のところでしましたかね。

(委員)丸ノコのことですか。

(会長)丸ノコ。

(委員)電動の。俺が持ってきたんじゃないか？

(会長)ああ、じゃあお願いします。

(副会長)ただあれ、丸ノコだけじゃ切れんだろう。

(委員)切れんなあ。

(副会長)角度を調整しないと。

(会長)もしどこかにあればご紹介を。やっぱり専門の人がいるとやり易い。今回1区の方がついていてくれる。

(委員)大工さんが持ってるような。

(会長)全然違うと言ってましたね。これはちょっとみなさん知り合いにいないか・・・。

(委員)大工さんか誰か持ってる？

(副会長)大工さんだったら持ってると思う。

(会長)ただ、2,000円程度しかお礼は出来ませんけどという事で。

(委員)いいでしょ、減るもんじゃないし。

(事務局)斜めに切れればもう。丸ノコ、スライド丸ノコで切ってました。

(会長)ああ、そうだった。もちろんまっすぐのものもありますけど、斜めに切った方が、灯りが綺麗なものですから。それと蝋燭につきましては100均で15個、108円になりますから、それでいこうかと思ってます。600ピース。

(委員)2日にわたってだから。

(会長)一日約300くらい。それと印刷製本費はカラーを考えてましたけど、公民館の白黒印刷で1,000円と。あと委託料につきましては、ご無理なお願いをいたしまして、当初2万円弱予定しておりましたが、1万円に、という事でご協力をお願いしました。よろしいでしょうか。それからその他としましては、お茶は21日、24日はお茶を準備したいと考えてます。そういうことで作業を進めていきたいと。トータル57,000円を予定しています。

(副会長)子どもですけど、穴開けるのは問題ないですかね。

(事務局)穴開けるのがですか？

(副会長)うん。この竹を置く台があればいいだろうけど。

(事務局)竹がちゃんと固定できれば。良いと思いますけどね。

(会長)ゆっくりやれば。

(委員)人の手で固定してあげれば。

(会長)私たちが応援しながら。

(副会長)人の手があればいいけど。自分の竹灯籠づくりに一生懸命ならんように。

(会長)協議会の委員は応援です。応援をしていくという事で、子どもたちのお手伝いを。

- (委員) フォローするような形で。
- (会長) 委員は率先して作らないように。
- (委員) 保険かなにか掛けないか？
- (会長) 今のところ考えてないけど。検討しますね。
- (委員) 何か掛けといた方がいい。
- (副会長) 半日のでね。
- (会長) ちょっと研究します。
- (事務局) そうですね、怪我があったらいけない。
- (会長) 保険は研究します。
- (事務局) 松崎地区で入とられないですか、自治会保険は。
- (会長) 各区で。
- (事務局) 各区ですか。その区の中には、竹灯籠作りは入ってない。
- (会長) 入ってないですね。
- (事務局) あらかじめ入っていたら、出るんでしょうけどね。
- (会長) ちょっと、共済の安い分、10,000円くらいでボランティア保険か、ちょっと研究してみます。じゃあ、事務局に、よろしくお願いします。
- (事務局) はい。
- (会長) 申込みは事前に入りますから。その名簿でいけるはず。
- (事務局) 参加者とか人数とかがはっきりわかれば。
- (会長) 名前が入りますからね。
- (事務局) そうですね。申し込みがあれば参加者リストみたいなのができますね。協議会の人のものでいいですか？
- (委員) 親子で来る人がいるから、人数を多めにしないといけない。
- (事務局) そうですね。だから親子の名前を聞いとかないといけない。
- (事務局) 親も含めての保障ということですよ。参加者全員。
- (委員) 19日締め切りだから。
- (事務局) 間に合うでしょう。
- (会長) じゃあ、保険の件でどういう物が必要かどうか、お願いします。ありがとうございます。貴重な意見。それでは、次にいきまして、点灯の話。もう少し先になりますけど。点灯の場所は、松崎神社の参道と、松崎神社の1区から契神社まで。実施日は令和元年10月12日土曜日と13日という事で予定しています。点灯は区長会に協力要請し、地区別に住民の協力を得て点灯するという予定です。その他、先ほどご意見がありましたけど、制作活動中の竹材料、竹灯籠の保管について中央公民館、または、東郷支所の協力を得るという事で、入ったところに置かせていただいて、細断も公民館の場所でさせていただく形になります。今自転車小屋にしようかと思ってるんです。副会長さん。
- (副会長) 竹を。
- (会長) 自転車小屋で最初カッティングしようかと思ってるんです。あとは保管の件です。昨年度の方もありまして、区でという話もあったんですが、区じゃあ難しいという事から、一部は松崎神社に置けます。1区なんかは広いところに置いてますけど、それ以外のところは今2区と3区の間、消防小屋、あそこに置いてまして。あまり環境が良くない、という事から既存の分も含めて、町民課経由で企画課に相談しました。旧東郷中学校の空き部屋を開放して、地域の伝統文化支援の関係の材料置き場にしても良いという事了解を得ました。
- (事務局) 企画課なんですか。

(事務局)ええ、跡地利用の分で。

(会長)鍵は教育委員会です。まだ文章は出してませんが、事務局に中継役になっていただく事になりますので。文章を作ったりして、今回の新規の分、今後の分、前の分も含めてあそこで綺麗に管理出来れば良いなという事。その仲介役を事務局にお願いしまして、了承を得ております。置き場をそういう形にしています。箱を置くとかして。よろしいでしょうか。そんなにしょっちゅう使わないですから、年に1回か2回という事で。むしろ今後なにかのプロジェクトで点灯することはあり得るかなあと、燕趙園とか話があったんですけど。例えばあやめ池であれを灯すとか、そういう事も出来るのかなあと。恒例として。クリスマスとか。置き場の件よろしいでしょうか？全体的には以上です。総合的に何か、ご意見はありませんか。

(委員)前に使った竹は、あれはそのまま使う？

(会長)そのまま使おうかと。

(委員)でも色は？色は大事だ。あせとって・・・。

(委員)別にいいのでは。暗くなってるから。

(会長)同じ発想。

(委員)ただ、穴が小さいとか、去年蝋燭が悪かった。

(会長)あとから、穴を大きくしないといけないのがでてくるかもしれません。

(委員)これくらいの大きさに。蝋燭の長さも。

(委員)大きな蝋燭な。でないと折角穴開けても反射しない。

(会長)確かにそうね。大きな蝋燭ね。高いけどね。

(委員)長いのね。

(副会長)立てられる？

(委員)だから、丸い皿を去年配って回った。

(委員)あれか。

(委員)あれに立てる。火をつけて。

(会長)丸い皿、返しちゃった。また借りるという形になるかもしれませんね。

(委員)高くすると、なんていうか、火事になる・・・。

(委員)蝋燭が高いから。

(委員)大丈夫、大丈夫。

(委員)それを心配する。

(委員)大丈夫。5区のは全部きれいに終いまで、ついていた。

(委員)まあ、大丈夫っていうなら。

(委員)だってろうそくの長さの時間っていうのは決まってるから。

(会長)ただ、高いからね、値段が。

(副会長)まあこれくらいあったらな。

(委員)穴を大きくしたら全然違う。

(会長)穴を大きくすることを考えましょう。

(委員)小さいといけない。それで穴が大きくてもいいって開けた。それが良かった。

(会長)そういう意味で雨が降ったら。斜め角度がいちばんいい。

(委員)光が外にもれない。

(委員)最初は底に穴開けてって思ったけど、逆にしたら上に灯りが漏れるから。

(会長)ちょっと穴を大きく考えましょう。

(委員)雨が降るとどうしようと思って見てたが。その方が危なげがなく。下をきっちりと切ることで。

(会長)一番きれいなのはカットがやっぱり斜めカットで穴がちょっと開いた感じが一番きれいな感じ。

(事務局)去年は雨じゃなかったですね。

(会長)途中から、雨だった。みんながしたのは、水平の裏に蓋があるから・・・。

(委員)被せるような格好になった。

(会長)雨の日はそんなに点けないから、逆にやってもいいかもしれません。

(委員)5区のはみんな逆にしたけど。

(会長)基本は被せです。

(委員)被せだった。灯りが籠ったらいけないと、蝋燭が長いから逆にした。

(委員)21日の日に点検っていうか、細断プラス前のやつ(竹灯籠)を点検っていうか・・・。

(会長)点検ね、なるほど。分かりました。どうせ持ってくるから。21日に前の分を点検という事で。

他の事もありますから、点検という事で、その時持ってきて。一緒に8月の作業が済んだら保管するという事で、点検を入れます。ありがとうございます。

(委員)保険は1日保険みたいなのはいくらくらいするんですか？

(会長)いろいろあってね。この穴あけ作業がどうかによって。そんなに高くない。知れたもんです。

(事務局)どのくらいの保障内容があればいいのか、とか。怪我した時の・・・。

(委員)そしたら、全然1万円がなくなっちゃって、委託料・・・。

(会長)まあ、そうなりますね。ちょっと研究します。

(委員)もしやの事を考えたら保険掛けた方が。子どもさんだから。

(事務局)共催にまちづくり会社も入れていただいたらと思います。3人くらい出ると思いますから。

(会長)まちづくり会社に共催に入ってもらって、まちづくり会社だとそういう協力も出来るという観点で。共催になりますけど、(企画書の)4番の基本計画の中に、まちづくり株式会社を入れておきます。

(事務局)またあとで紹介があると思いますけど、実は今日新しい地域おこし協力隊の人が着任しまして、そういった方もどんどん地域の活動に参加してもらおう方がいいと思ってまして。そういう意味でもなるべく参加できる人は出るようにしますので。

(会長)ありがとうございます。

(事務局)今言いましたけど、地域おこし協力隊に新しい方が、大阪から来られた方です。

(委員)何人おられますか。

(事務局)今、まちづくり関係が二人目になります。

(事務局)泊の空き家対策をされる方がいます。

(事務局)今回の人が、まちづくりの情報発信であるとか、ゆるりん館であるとか、企画を考えてもらう・・・。40歳くらいの人です。

(会長)着任した？

(事務局)今日が着任です。

(事務局)今日が着任だったんですが、結構しゃべりが達者な人で、大阪でネットのラジオ局っていうのでしょうか、そういうのを持っておられる。

(会長)分かりました。すいません、チラシの共催の方に。

(事務局)修正を。

(会長)その方が寄付がしやすいと。ありがとうございます。じゃあ協力体制の方も仕組みも決めまして。

(委員)21日が最初ですね。

(会長)ええ。一応時間決めときましようか？

(委員)あとで。

(会長)それで、先の話になりますけど、次の協議会を8月の第一月曜日の5日に協議会を開催したいと。チラシも出て、募集もかけました。そういう状態で協議会を開催すると。8月5日19:00からどれみで協議会を開催して、実行的な協議会にしていきたいと思いますのでよろしくお願ひします。そうしたら、8月21日と8月24日は出れる体制でお願いします。あくまでも8月21日と8月24日は私たちはボランティアという事で、よろしいでしょうか。

(委員)これは子ども中心で20人って、結構多い数だ。

(委員)だから多分30とか40くる。

(事務局)保険掛けるのは24日のみという事で。

(会長)ええ。よろしいでしょうか。協議会の方は8月21日、24日につきましてはあくまでも協議会のメンバーボランティアという事でよろしくお願ひします。保険の方は24日。ではプロジェクトの方はよろしいでしょうか。次の会の話も出ましたけど、全体的によろしいでしょうか。副会長ご意見よろしいですか。事務局の方はよろしいでしょうか。

(事務局)はい。

(3) その他

(会長)では、その他の方につきまして、報告事項、情報提供はありませんでしょうか。協力隊の話があったので、今回の人は？という情報発信役として来られた？

(事務局)現状は今の一人では、どれみを見れませんから。基本的には現在の担当者と新しい方と二人で、どれみを見ていただきながら、どれみのいろんなイベント企画とか、ゆるりん館のイベント企画とか、またはまちづくり会社の情報発信とか、そういった事を中心にやっていたらどうかと思ってますけど。まだ本人さんといろいろと話が出来てなかったり、何が出来るかというところの話が出来てませんが。

(委員)ホームページ作ったりなんかをされる？

(事務局)そういうのも得意だそうです。

(委員)それでバンバン、情報発信とか出来たら。今みんな情報どこかで仕入れて来られる。

(事務局)私もやっぱり、思いとしてはその当初コミュニティネットから5人も来られて、協議会の方と一緒に活動しながらまちづくりをするっていう事でやってましてね。そこが段々抜けられて、かといってじゃあまちづくりのスタッフの方で、じゃあいろんなボランティアに出れるかっていえば、なかなか会社の立ち上げからいろいろ出にくい部分もあったりして。でも今後は新しい協力隊の方も含めて、もう一回、協議会とまちづくり会社と松崎の活性化を、一緒になって考えていかないと。ゆるりん館の利用促進もいろいろ考える中で、やっぱり成り立っていかんじゃないかという心配をしております。出来るところでいいんですけど、一緒に軽トラ市とか。今ちょっと疎遠になりつつある部分もありますけど、折角こういう活発な協力隊の方にどんどん来ていただいているので、一緒になって、活動していった方がいいんじゃないかなという風に思ってます。

(副会長)今ゆるりん館が出来て半年たちますけど、事業内容、どんな状況なんですか？いろいろ難しい点もあると思いますけど、話せるところがあれば。

(事務局)率直なところやっぱり、当初想定してましたお客さんの数であったりとか、一人当たりの購買単価というのは、半分以下です。Aコープさんが月に1,300万くらい、売上げしておられたっていうのが平成26年の最後のあたりらしいですが、それからいくとやっぱり売り場面積は減らして、いろいろ加味した中でも、われわれが想定した売上からすると、まあほんと半分以下みたいな事なんで。特に食堂関係が、やっぱり人件費がこうなかなか出しにくいというのが本音のところですね。マルシェ部分にしても地元の方の要望を取入れて、生鮮野菜やお肉とか、どんどん改善していかな

いといけないっていうところはまだまだあります。ゆるりん館自体では正直なところ黒になってないです。ただ、たまたま今他の事業が順調にいてますので、そこでなんとかプラマイゼロに持っていくように努力はしてるんですけど。やはり地元の方に利用していただかないと存続はなかなか厳しいのかなというのが現状です。やはり、もうちょっと意見を取入れながら、地元の方に愛されるような店づくりに変えていかないといけないというのを最近つくづく思っています。

(委員)前のAコープの時は何時ごろまでやってたんですか。

(事務局)同じ7時。朝も10時ですよ。10時から7時っていうのは変わらないです。

(委員)商品コースはいいと思うけど、みんなが外に出ちゃう。流れってというのが・・・もうちょっと来てもいいと思うけど。

(事務局)そうですね。確かに平成26年に比べたら、コンビニが増えたりとか、羽合の方にディスカウントショップが出来たりとかっていう環境の変化っていうのはありますけど。

(委員)買い物難民がいるっていう事で、そういう人らが、なんで足が遠のくのかなあっていう感じがする。

(会長)やっぱりコンビニ。コンビニの影響が強かったですね。前は1個しかなかったのに、今は2個ある。あれはAコープがなくなってから誕生して、それが大きかったですね。あと生協関係。

(事務局)最近がんばっておられますからね。

(委員)僕は店側の数が増えるっていうか、たくさん出来るっていう事は、住民にとって便利がよくなるから良い事だと思います。けれども、問題は分母、人口が全体的に上がらないとダメだと思うんです。一定の小さい人口の中で、お客を取り合ったり、店の数が二つが三つになった理由でそういう窮地に陥っているわけではなくて、やっぱり人口を増やさないと。

(事務局)逆に言えば、人口を減らさんがために店を維持せんといけんっていうところもあるでしょうしね。

(委員)だからのレークサイドヴィレッジなんかは、人口を増やすためにも有力な事だと思います。

(事務局)まあ、ですからコンビニとか羽合のディスカウントストアにないような魅力のある交流スペース的な事をもうちょっと仕掛けていかないといけないんじゃないかなっていうのは思ってます。

(委員)イベントを何回かしたけど、その時は割と賑やかに？

(事務局)特に、ゆるりん市と月に1回、ハートフルコンサートを2か月に1回でやるんですけども、やはり1回目っていうのはどちらもかなり多くて、もちろん来場者が増えればその分食堂もマルシェも売り上げが、伸びるんですけど。みなさん慣れてきちゃうっていうですかね、1、2回来ると、まあこんなもんだなああって、慣れて他のイベントに行かれたりという事もありますので。続けることは大事だと思ってますけど、なかなか最近イベントだけでも難しいなっていうのを感じてますんで、なにかこうイベントだけではなく体験型の教室みたいなものとか、そういった物をやはり手を変え品を変えしていかと飽きられちゃうなっていうのは思います。

(委員)月1回のイベントを店内でやってるのを、外でできないですか。

(事務局)外でもいいですけど・・・

(委員)折角行ったけど、中がごった返してて、ゆっくり見る間もないって言われるんです。折角子ども連れていってもみくちゃで、品物のところに行くまでがなかなか行けない、と。もうちょっとゆとりがあれば。外が一番いい。テントとかを出して、ゆっくりとみて話でもしながら買い物ができるんだけど。あれだったら狭い。

(事務局)1回目が想定以上来られたので、すごく混みあって・・・でも3回目4回目くらいになると混みあうほどのお客さんが来なくて、逆に中でも持て余してるくらいで。

(委員)スタッフの方が多くて、お客さんの方が少ない、とは聞く。だけど乳母車を押して小さい子どもを連れてこられる人は、そこら辺がもうちょっとゆとりがあればいいね、って話はされる。すぐ、

帰っちゃった、狭いし。折角行ったけど、って。やっぱり車押していかないといけないし、ちょっと無理だねって。それは残念だったねとは言うけど。全部中でなくても外にちょっとあれば。

(委員)そういう人はどこで買い物される？

(委員)イベントの時に見て回る。

(委員)まあ分かるんだけど、車押してって今の高齢者の方は。

(委員)年寄じゃない、若い方。

(委員)若い方か。高齢者の人が、集まらないっていうのが、よく分からない。なんでだろう。たくさんおられるはずなのに・・・。

(会長)買い物で、社協の便があるんです。毎週一回。金曜日。買い物バスが、メニューが。例えば、私はスーパーに行きたい、私はどこどこに行きたいと。社協は定期便がある。昔は月2回だったけど、今は週1回ある、毎週金曜日、それが大きいと思います。好きな物が買えますから。メニューがたくさんあります。楽しめるかと。

(事務局)買い物が楽しめる。

(会長)楽しめますから。周りに友達もいますし。

(委員)何人か組んで行かれる。今日大きな車に並んでおられた。

(会長)生鮮食料品のあたりになるんじゃないですかね。余談ですけど、近所の方が、ホームセンターにトイレットペーパー買いに行く。もう70、80くらいの方が。自転車です。荷物持って帰りましようかって言ったら、自分で帰ると。やっぱり努力されてるのか、と思って。旭ですよ、旭から自転車で。

(委員)地元でパン買うよ。

(事務局)良い物は売れますからね。

(会長)あとは地元のもの。愛してやまない。さっきパンが出ましたけど、どここの近所の物が出てるとか、そういうのを仕掛けないと、と私は思います。いろいろと。

(事務局)またご意見いただけたら。それから1点、食堂の方で、今、土日に働いてる方が、辞められる方がおまして、平日の補充はかなりあるんですが、土日の方っていうのがなかなかなくて。もしみなさんの中で、料理が好きで食堂で働いてもいいよっていう方がいたら、ご紹介いただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

(委員)土日と平日の賃金差はある？

(事務局)土日の方が50円高いですね。

(委員)時間で？

(事務局)時間給。

(委員)何時まで？

(事務局)時間は、8時半から3時くらいまでですかね。

(委員)下準備して。

(事務局)はい、片付けまで。

(会長)もしありましたら、ご紹介をお願いします。よろしいですか。みなさんの方から何かありませんでしょうか。

4. 閉会

(会長)それでは、少し時間が過ぎましたが、最後に副会長の方から、いただきまして本日の会を閉会したいと思います。

(副会長)どうもご苦労さまでございます。短時間でのいろいろな質疑に対して、良い回答やら、いろいろと大変な事や、初めて聞いた事もあります。第一の目標は活性化という事でこの協議会発足して

おりますので、今事務局の方からもゆるりん館の益々の発展を、お互い松崎の住民として考えてい
かないといけないなあと考えております。相当ゆるりん館の方も苦勞をしておられます。何とか協力
出来ればなあと考えておりますので、またその節はですね、みなさんの良いアイデアを出してい
ただいて、活性化とゆるりん館とが目の目を見るように、ひとつがんばっていきたいなあとという風
に考えておりますので、また協力の方よろしくお願ひします。ありがとうございました。

(全員)ありがとうございました。